



復興庁

Reconstruction Agency

復興・創生 その先へ

資料7

# 福島国際研究教育機構 (F-REI) 施設整備の方向性 (案)

令和5年6月26日

# 福島国際研究教育機構 本施設整備（イメージ）

## F-REI本施設としての整備を今後検討する施設（※1）

### 本部機能

- 一般事務室(3,600㎡)
- ホール(600㎡)
- 講義室(50㎡×10)
- 会議室(300㎡+150㎡×2)
- 福利厚生スペース(2,800㎡)
- 広報展示スペース(1,400㎡) など

### 研究・実験機能

- 一般研究室・実験室(340㎡×50)
- 研究共用機器スペース(5,700㎡)
- 計算機室(1,200㎡)
- 研究交流スペース(50㎡×15)
- 図書室(500㎡)
- 固有実験室(※2) など

### その他の機能

- 短期滞在機能(23㎡×150)
- 産学連携交流スペース(150㎡×20) など

（注）上記面積には、トイレ、廊下、設備諸室（機械室、電気室）等は含まない。また、必要に応じて、室の追加削除、数量・単位面積の変更等を行う

※1 国が行う当初の施設の設計条件は、令和5年度までに取りまとめる施設基本計画にて整理

※2 固有実験室については、F-REIの研究の進捗・機能の具体化等の状況を踏まえ、規模・仕様・時期等を決定

復興庁設置期間内での順次供用開始を目指すこととし、さらに可能な限りの前倒しに努める

- 施設基本計画のとりまとめ、都市計画手続き
- 基本・実施設計、用地取得（用地取得予定面積：概ね14ha）
  - 造成工事
  - 建設工事 →竣工後順次供用開始

# 施設整備の方向性（案）

## ○周辺環境や景観に配慮した施設づくり

- ・ 敷地北側は住宅地への影響も考慮し、可能な限りセットバック<sup>(a)</sup>するとともに低層な建物を配置する。
- ・ 不特定多数も利用する機能は敷地東側に集約し、駅前周辺のまちづくりとの連続性を考慮する。
- ・ メインアプローチは敷地東側を基本とし、浪江駅西側からの歩行者動線等も踏まえる。
- ・ 周辺の景観を踏まえた建物高さとし、立面を分節化<sup>(a)</sup>するなど周辺の街並みとの連続性を考慮する。

## ○研究者や地域の方々に親しみやすい施設づくり

- ・ 各棟の外観には周辺の街並みとの調和を考慮した色彩や地域産材の活用等を検討する。
- ・ F-REI研究者や地域住民、企業・大学等の共同研究者など様々な人々の交流空間創出<sup>(b)</sup>を検討する。
- ・ 研究成果等を広く情報提供<sup>(c)</sup>するための空間及び手法を検討する。



(a) セットバック・分節化のイメージ



(b) 様々な方の交流空間創出のイメージ



(c) 研究成果の情報提供のイメージ

# 施設整備の方向性（案）

## ○多様な研究内容に応じた施設づくり

- ・ 分野横断・異分野融合を創出する交流・連携空間<sup>(d)</sup>を施設内外に創出する。
- ・ 研究内容に応じた柔軟なプラン変更等に対応できるオープンラボを基本とする。
- ・ 若者や女性、外国人などの多様な研究者が活躍できるような環境整備<sup>(e)</sup>を行う。
- ・ ロボットとの共存など研究成果を還元・実装できるような環境整備を行う。

## ○安全で快適な施設づくり

- ・ 施設機能に応じた浸水対策を行い、災害時でも業務が継続できるようにする。
- ・ 車両動線と歩行者動線を分離し、歩行者動線については可能な限り移動時のストレスを低減する。
- ・ 研究内容に応じて適切なセキュリティレベルを設定し、オープンスペースとのゾーン分けを検討する。
- ・ ユニバーサルデザインに配慮した施設づくりを行う。



(d) 交流・連携空間のイメージ



(e) 多様な研究者が活躍できる環境整備のイメージ

# 施設整備の方向性（案）

## ○地球環境にやさしい施設づくり

- ・再生可能エネルギー活用<sup>(f)</sup>のほか、施設特性に応じてZEB化や木造化<sup>(g)</sup>を検討する。
- ・施設完成後の運用マネジメントや管理方法を念頭に置いたシステムづくりを検討する。

## ○早期供用を目指したサステイナブルな施設づくり

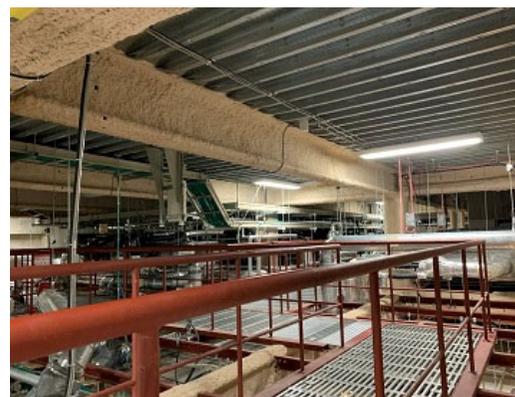
- ・研究の進捗に応じて段階的かつ早期に施設整備を実現できる方策を検討する。
- ・共同溝の設置や設備スペース<sup>(h)</sup>の確保など、研究内容や社会のニーズの変化に応じた柔軟な改変や将来的な増築等への対応を検討する。
- ・工期やコストを踏まえながら、適切な洪水対策<sup>(i)</sup>を検討する。



(f) 水素活用のイメージ



(g) 木造化のイメージ



(h) 設備スペースのイメージ



(i) 洪水対策のイメージ